



(公社)日本山岳会岩手支部

発行 2024年3月31日
発行者 阿部陽子
事務局 高橋勇一
盛岡市下田字古河川原 20
mail: iwt@jac.or.jp



2024年2月 八幡平

目 次

巻頭言	阿部陽子	1	堀合ヶ岳	鳩岡美波	9
例会山行			霞露ヶ岳	高野 修	10
五堂城森	澤野沙織	1	県山協行事		
峠ノ神山	齋藤忠利	2	岩登り講習会	小山田千鶴	11
穴目ヶ岳	阿部陽子	3	初冬期講習会	大場由実子	12
岩倉山	高橋勇一	4	沢登り講習会	高橋瑞穂	13
岩鷲山古道	高橋時夫	5	冬山講習会	澤口 誠	14
禰々子森	澤口 誠	6			
高清水山	今野洋介	6	編集後記	高橋勇一	14
オイネガ森	小山田千鶴	7			
〃	高橋瑞穂	8	利部輝雄先生のご逝去を悼む		
網張温泉スキー場	久保 豊	9		中屋重直	15

支部通信第 56 号発行に寄せて 支部長 阿部陽子



昨年 3 月に第 55 号を発行してから 1 年を経て、「速報」ではありませんが、私たちの活動記録として紙面に残します。

令和 5 年夏の猛暑はことさら長く過酷でしたが、それでも月例山行と県山協主催の講習会参加・岩手山避難小屋の管理当番など、計画した事業をすべてこなすことができました。8 月 11 日 (山の日) には JAC 120 周年記念山岳古道 120 選の 1 つ「岩手山上坊口」を踏査しました。上坊は岩手山 7 コースのうち最短ながらかなりの急登が連続する。うだる暑さに樹林帯では汗ダクで「六根清浄、ざんげ懺悔」と、つい唱えてしまうほどでしたから信仰の力は想像を絶します。なお、一昨年に西

側の「^{ふるうわんぼう}古上坊」で一合五夕の石碑を探索しており、祈りの古道の証としてコラム欄で紹介いたします。そのほかに支部が計画し満を持して達成した「秋田街道」と「仙北街道」とも、順次 JAC ホームページで展開されつつあります。期待しましょう。

4 月に五堂城森を選んだのを始め、通常の登山対象でない未知の (情報が少ない) 山々をとりあげました。新型コロナ感染を避けるためでもあります。岳人としての基礎を築いて欲しい、例えば計画、読図、安全、場合に応じたルート修正など、そして報告書を書くまでのことを課しています。

5 月には新入会員大場由実子さん (花巻市)

を迎えました。連続 8 年くらい、入会者が途絶えたことはなく快哉をあげましょう。会員獲得に奨励金が交付される制度のおかげもあり、私たちは支部会費をゼロ円にして 2 年間たちましたが、事務量の軽減化に役立ってよかったですと思います。

一方、岩手医科大学山岳部を指導してこられた利部輝雄さんをご逝去されました。最近の会員に向けて海外登山のノウハウを御講義していただく機会を失ってしまい残念です。

会得しなければならない技術がたくさんあります。これからも皆で研鑽してまいります。

4 月例会「五堂城森」

澤野沙織

関口不動尊の鳥居をくぐり、新緑を眺めながら歩くと心地よい風が気持ち良い日でした。樹林帯を歩き進めていくと、落葉が深い所もあり、どのコースを歩くかにより険しさを感じるのと同時に、どのルートを歩くか見極めることが重要だと感じました。



(支部旗が裏返しになってます(´艸`))

下山時、私は尾根を下りながら右手に掴んだ木の枝が折れあつという間にスピードが出て滑落してしまいました。目を開け木を避けながら、四肢を伸ばし何とか停止することができました。

滑落時、私は気づきませんでした。一回転

したそうで記憶が曖昧ながらも怪我せず下山できた事と手当てしてくださった皆様に感謝いたします。

下山時に足の重心のかけ方を意識し、安全登山を心掛け今後に活かしていくつもりです。

5 月例会「峠ノ神山」

齋藤忠利

天空の遊歩道と名高い峠ノ神山、亀ヶ森、亀岳山をめぐる山行である。今回は特にこの周辺に造詣が深い超ベテラン会員である渡邊博厚先生の参加をお願いしての山行となった。

午前 8 時、宮古市和井内の「ふるさと会館」に集合。副幹事新川会員の案内で進行し、途中亀ヶ森神社に立ち寄り参拝したうえ峠ノ神山へ向かったが、途中から広大な亀ヶ森牧野が広がり、眺望も最高で正に天空の遊歩道となっていた。

牧野の中の林道を進み、午前 8 時 50 分ころ峠ノ神山登山口に到着。頂上への直コースではなく迂回コースを選び登山開始。登山道は整備されていなかったが比較的緩やかな登りであり楽に登ることができ大岩(地藏岩)に到着。

大岩の上に地藏が祀られていたが社は無残にも熊に荒らされていた。大岩から頂上へ。頂上には峠ノ神山の日印となる石碑と三等三角点(点名「亀ヶ森山」)があった。渡邊先生曰く「点名からしても昔は、峠ノ神山、亀ヶ森、亀岳山を含めて亀ヶ森山と呼んでいたのでしょう。峠ノ神山は女神であり、この南東方向に証拠となる石がある。」とのこと。結局、その場所は大岩付近であることが分かり再びその場所へ移動。搜索の結果、大岩の隣に大きな円形の石を発見した。渡邊先生曰く「ここには義経伝説がある。この石は女陰石であり、義経一行が割ったと伝えられている。これは峠の対岸には男神の亀岳山があるため、それに対する女神信仰であろう。

さらには山火事防止の願い、つまり経血を火が嫌うとの言い伝えから女陰の象徴を祀つ

たものと思われる。」とのこと。

下山の後、解放感みなぎる牧野の中を車で進み亀ヶ森に移動。車の駐車場所から見渡す限りの平原の中を快適に登り、あっという間に牧野の中にある亀ヶ森の頂上に到着した。

頂上には石碑があり、ちょっと離れた場所に三等三角点(点名「人迷」)があった。渡邊先生曰く「この辺は比較的平坦で目印がなく濃霧の時は迷ってしまう場所なので人迷と名づけられたのであろう。」とのこと。周囲を見渡して納得。

亀ヶ森頂上から稜線を通って亀岳山に向かった。やはり一部牧野を通る緩やかな登りであり快適な道であった。頂上には亀岳山本院のお宮と鳥居、そして剣が奉納されており何となく歴史観が漂い重みの感じる場所であった。渡邊先生曰く「亀岳山は男神を祀った山で三山の中心の山である。ここは信仰の山であり、修験者の山でもあるが昔は多くの人々が参拝のために登った。本来の登山道は、今回登った道の反対方向(東方向)であるが、今は使用されていないため登山道は荒れ放題となっている。」とのこと。



更に先生曰く、「亀岳山(男神)と峠ノ神山(女神)の両方を参拝すれば男女の恋が成就すると言われている。独身の方は大いに登って参拝して下さい。」でした。既婚者が参拝したらどうなるのであろうか。

我が会は未踏の地を歩くことも登山の醍醐味との支部長の姿勢もあり、荒れ放題の旧登

山道をたどることとし、新川会員の案内で下山開始。結果は、途中まで藪、藪、また藪で大変な行軍であったが、下りであったため何とか歩くことができた。

今回の登山は、黙々と歩くのみではなく、景色もさることながら渡邊先生の説明入りであったため、山を新たな目で見ることができた事など、実り多い充実した登山であった。

下山は厳しかったが午後 2 時 55 分、全員無事林道に到着することができた。

6 月例会「穴目ヶ岳」 阿部陽子

令和 5 年 6 月 25 日(日)、「穴目ヶ岳」で公益事業Ⅲ(調査研究)を実施した。この日は暑くなく寒くもなく、山の観察にふさわしい安定した天候であった。

穴目ヶ岳(1168m)は、岩泉町の西に位置する深山だ。藩政時代、野田の海岸で製造した塩や海産物を牛の背にくくりつけ、内陸各地に運んでいた。山の斜面は牛の食料となる重要な採草地である。牛追い一人が牛 5～6 頭を率い、数日かけて移動するのだから、牛に与える餌の確保は重大事項だった。そのため穴目ヶ岳を境に北の安家地区と南の小川地区では、採草にまつわる諍いがたえなかったという。



(穴目ヶ岳山頂にて 🇯🇵)

トラック運送へと時代が替わり、「牛追いの道」は歴史のフォークロアになった。平成後半になると草原の面影はなく、ノイバラが繁茂して徐々に荒廃化した。山頂直下まで通した林道も、この数年でササや低木帯に被われるだろうし、「穴目ヶ岳は自然に還る」ものと思われた。

だが、平成 25 年に環境が一変。岩泉町小川地域振興協議会の計らいで、穴目ヶ岳が登山の対象として開かれたのだ。登山口の看板に「穴目ヶ岳は私有地です。地権者の深いご理解のもとに登山ができています。お一人おひとりがマナーを守り楽しい登山といたしましょう」と呼びかけていた。

6 月の支部例会は穴目ヶ岳の自然観察会をかねた調査研究である。看板のそばに駐車して穴目林道を登って行く。ごろごろ石と轍の凸凹で歩きにくかったが、クガイソウ・トラノオなど初夏の花々が目につく。ノイバラはまだ蕾のままだった。ネット情報によると 5 月はニリンソウのお花畑になるらしいし、小川地区では年 1 回、自然観察会をもうけ、登山と草花を慈しんでいるとか。

穴目ヶ岳は登山の山域に変身した。案内板が付き、山頂まで迷うことはない。西側の展望がすこぶる良好、葛巻方面の山並みが青く光って美しい。二等三角点の点名は「穴目」。登り 2 時間・下り 2 時間あれば健康的であろう。

7月例会「岩倉山」

高橋勇一

岩倉山、その山は釜石市の旧釜石鉱山事務所、北東方向に位置する山。支部の例会山行で登りたい山として私自身が提案した山ではありませんが、インターネットで調べてみても有益な情報がほとんど有りませんでした。

ならば、直接現地へ赴いて偵察して来るしかないと思い、何とかなるだろうという気持ちで偵察に出かけました。

まずは第一案の旧釜石鉱山事務所から登れるか確かめるため、開館時間の2時間前に現地に到着したのですが、いきなり野性の猿と遭遇してしまい驚かされてしまいました。内陸に住んでいる私にとっては滅多にない事だったので得した気分になりました。



(猿との遭遇 🐒 😱 🙄 🙄 🙄)

事務所入り口に向かってみると、入り口が閉まっており開館時間までは入る事が出来なかったため、どこか取り付ける所はないかと探してみましたが、急な崖で現実的ではない上に、そもそも釜石鉱山の所有地に勝手に立入る訳にもいかず、あえなく断念。

ならば第二案で岩倉山の東側、日向ダムから登ったという情報があったため、そちらに向かってみる事に。

日向ダムを過ぎると、廃墟となった「小川温泉 (こがわおんせん)」があります。廃墟巡りマニアの方々が訪れている様子がインターネットにも載っておりました。

小川温泉の辺りまで来ると、工事車両が止まっており何かの工事をしているようでした。入山地点まで車で進もうとすると、通行止めの看板が出ており、工事関係者に話を聞くと大型車両が通るから車もその辺に止めないで欲しいと言われ、そそくさと退散する事に。何の工事でいつまでなのか、日曜日は工事してないのか聞けば良かったと後悔しながら第二案も駄目になったところで、日向ダムの公園を散策し旧釜石鉱山事務所の開館時間が過ぎたので再度向かってみました。

自分の予想では事務所の人に断れば登らせてもらえるかと楽観視していたのですが、事務所に常駐して居る人は釜石鉱山の社員さんではなく釜石鉱山から聞いてみないと分からないとの事。偵察に訪れた日は日曜日でお休みのため休み明けでないと分からないとの事。

偵察日は第一案も駄目になったところで、ひとまず館内を見学し、第三案を考える。国土地理院の地形図をみると、岩倉山北側からアプローチできそうで地図には石仁田小屋、大平小屋と表記された建物があり地図上では車で行けそうな道路でしたので向かってみる事にしました。

途中には栗橋分工場跡という史跡や瀧澤神社奥の院という神社もあり、歴史のある道なんだなと思いながら車で進んで行くも段々と道が険しくなり乗用車で来たことを後悔。これ以上進むと危険と判断し、地図上で見つけた気になる小屋まで辿り着けず第三案も断念。

結局、偵察に訪れたこの日には登る事が出来ず撤退する事になりました。帰ってからインターネットで釜石鉱山のホームページを調べ、敷地内に立入り岩倉山に登らせて欲しいとメールを送ってみると、こころよく登山を許可してもらえました。

当日の例会山行の事は割愛しますが、個人的には北側からアプローチする第三案が気になっており、いつかまた訪れたいと思います。

8 月例会 「岩鷲山古道を訪ねる山旅」 高橋時夫

JAC 岩手支部 8 月例会は、JAC 古道調査の一環として 8 月 11 日 (山の日) に岩手山上坊コースで実施した。昨年の古上坊コースの踏査に続き、江戸時代を中心に修験者や住民のお山掛け等山岳信仰の史跡、逸話等を随所に残す上坊コースの調査登山として行った。



コースは、岩手山新山神社の上坊社務所から「つるはし」、「三十六童子」、「平笠不動」を経て岩手山頂までの往復コース。

早朝 7 時、参加者 10 名が焼走り登山口に集合。日程、コース確認を行い、岩手山パノラマラインの上坊神社口から入山。社務所で参拝を済ませ 7 時 30 分登山開始。途中「御座石」を通り 8 時 30 分、二合目着。二合目付近はナラ、カエデ、ハウノキなどの広葉樹林。道標を確認し三合目を目指す。植生はツガやオオシラビソに変化。秋は岩手山松茸も見かける樹林帯。



三合目からツルハシまでは、急こう配の登

山道が続く。2 時間 10 分ほどでツハシに到着。流石にみんな一気に疲れが出た様子。四合目付近のツルハシで一息入れて次の目標地「三十六童子」を目指す。コースは、比較的平坦で歩きやすい。10 時 30 分三十六童子到着。

最後の急こう配を一気に登りきると岩手山頂の薬師岳と平笠不動の茶臼岳の岩峰が目に入る。平笠不動には平成元年に建設された避難小屋がある。到着時間は 11 時 10 分。

11 時 30 分山頂を目指して登山開始。12 時 20 分岩手山頂着。最高の登山日和。上昇気流に乗ってアキアカネやオニヤンマが乱舞している。穏やかな岩手山頂で思い思いに寛ぐ。御鉢には短い夏を惜しむかのようにコマクサが咲いている。午後 1 時過ぎ、下山開始。

昨年の古上坊登山の際は、集中豪雨に見舞われ途中下山となったが今回は予定通り江戸時代からの参拝道として親しまれている上坊古道調査ができた。下山時は、アキノミヤマキリンソウ、ウメバチソウ、イワギキョウ、ヤマハハコなどの初秋の高山植物に見とれながらの下山となった。

焼走りキャンプ場に 6 時近くに到着。阿部支部長が準備してくれたスイカはヒンヤリとした中に甘さもあり猛暑の中での登山の疲れを癒してくれた。



今回のコースは、JAC 発足 120 周年事業として展開している日本の古道 120 の一つとして選定されたコースでもあり、歴史的な背景や史跡、石標、古道にまつわる伝説等も調査の対象とした。古道調査報告の詳細については「(公社) 日本山岳会古道調査(岩手山上坊登山道(巖鷲山上坊参拝道)) 報告書」として取りまとめました。

9 月例会「禰々子森」

澤口 誠

禰々子森(ねねこもり)

岩手県宮古市腹帯の大沢ダムに集合して取り付き場所まで乗り合いにて車で移動。

下見では大沢ダムから歩いた。下見大事。8:30 広めの駐車場からすぐに作業度に入り沢沿いを登る。

約一時間ほどで沢の分岐にたどり着く。沢を左に。そこには朽ちた作業小屋があった。魚影の濃い沢沿いを上り詰めて道がなくなる。そこからは読図にてピークを目指します。



(山頂にて 🏔️ 🍌 🍷)

10:50 山頂直下の藪をかき分け山頂へ。片道約二時間。山頂は眺望は無いが木の隙間からいろんな山が見えた。

山頂でランチ。ゆっくりしてられない。だんだんに寒くなる。縦走も考えたが渡渉の川幅が広く安全を考えピストンに。12:44 下山はあっという間に。

参加の皆様お疲れ様でした。



(昼食の様子 🍱 🍷 🍌 🍷)

10 月例会「高清水山」

今野洋介

朝、目覚めたときはまだ薄暗かった。空は機嫌の悪いガマ沼のように淀んでいたが、心は高清水山に向かう旅への期待で躍っていた。コーヒーの香りが走り出しの車を満たし、冒険の始まりを告げた。

仙人峠駅跡地へと向かう車窓からの風景は、無骨な山肌や緑豊かな山々が広がる。池から生える木々が霧に煙る景色に、ワクワクは大きくなる一方だ。

高清水山の登山口は、橋がねじれたコピー用紙のように見え、神秘的な秘境への入り口のようなようだった。整備された道と綺麗な看板に感謝しつつ、齊藤さんは今年初のボリ発見に意気揚々だ。杓掛観音や仙人堂跡の看板に興味を持ちながら進むと、仙人峠にて四等三角点を発見。ここが道半ばだ。登山道は険しさを増し、鉄塔の目印に息を切らせながら近づく。頂上への期待だけが、重い息を軽くする。鉄塔から獣道に入ると、新目の鹿



の死骸に出くわし、緊張感が走る。しかし、中屋さんの「とりあえず、進みましょう」という声に後押しされ、斜面を上り藪をかき分けて、ついに頂上に立つ。頂上での食事は格別だった。

下山はピストンでの下山だったが、下山の道で、まさかのキノコの宝物庫に会う。小山田さん、瑞穂さんをはじめ、キノコ取りに興じる一同。大漁旗を両手に掲げるも、登りに目を付けていたキノコを回収しながら下山した。下山するとダニが身体中にしがみついていることに気づく、しかし、ダニのことなど忘れてしまうほど仲間との笑い声が、この日を宝物に変えた。

11月例会「オイネガ森」 小山田千鶴

オイネガ森。初めて名前を聞いた時にはどこにある山なのか、全然分かりませんでした。この山に登りたいって見つけれられた方は一体誰なんだろう？マニアックだなあ♪と気になりつつ地図で探すとカタカナの名前の山は地図上でも目立っていました。大槌町と釜石市にまたがる山。

グーグルで調べると釜石市栗林6地割となっていました。

オイネガ森の隣には赤仁田森(511.1m)もあり、どちらも三角点がある。今回一緒に幹事担当の三角点ハンターの瑞穂さんと相談して2つ行ってみよう♪ということで2座踏む予定となりました。オイネガ森のオイネは狼に由来するのだとか。お犬、大犬が訛ってオイネになったのか。

滝沢市巢子の辺りにも狼久保(オイノクボ)…小岩井の方にも狼森(オイノモリ)と読む地名があります。昔は狼が身近な動物だったんだろな。



当日は、怪我でしばらくお休みしていた澤口さんもサプライズ参加☆久しぶりに、それも元気な姿に会えて嬉しくなりました♪水車のある所からレッツゴー!!スタート直ぐ伐採された丸太が急登にゴロゴロ転がっている💧実に歩きづらい💧歩きやすい方を澤口さんがみんなに声をかけてくれて、なんとか尾根へ。流石、隊長でした!!尾根に上がると藪ではなく歩きやすい🌱いーじゃないか♪すると、なんと鹿の角を発見♪ラッキー♪

初めて鹿の角ゲットしました。途中の358.1m付近で四等三角点(上栗林)にタッチ👉歩きやすい尾根を進みます。

内陸は雪が降っていたのに、予想を裏切る暖かさ。歩いていると暑いくらい。風は強めだったけど青空が綺麗。思いの外の小春日和と紅葉が気持ち良い山行でした。足元はフカフカの落ち葉の上を歩くのがまた面白く。楽しんで進んで行くとオイネガ森の山頂664.2m▲二等三角点(橋本)もタッチ👉

オイネガ森の山頂からは急な坂道。お昼にしましろうとザックを下ろすと瑞穂さんの👤が転がり、おむすびころりんになりました。が無事👤を取り戻しお昼ごはんできました。満腹後に集合して記念写真。その後はオイネガ森の急登を下り赤仁田森▲三等三角点(511.1m)へ。

あまり藪ってはいませんが広い尾根になると少し分かりずらく。赤仁田森から南へ下るところで急坂でした💧コンパスで合わせた方に進みたいところ、急で歩きやすい方に少しそれて下りてしまいました。下山が近づくにつれ、傾斜も増しドンドン急になり、途中、足元にバラ線が張られていたり、大変歩きづらく尾根の歩き易さが恋しくなりました。

最後はゴール目のトゲトゲの伐採地。これも段差があったり、切り株があったりで、どこか掴みたいけども手を出すとほぼトゲトゲ地獄。なんとか下りて、スタート地点の水車小屋裏に辿りつきました。緩急のある山行でした。

初の幹事を振り返り…全体を見たりトゲトゲ急登を下りる際のフォロー等、自分の出来ることや立ち振る舞い等、足りない至らない点がありました。次は周りを見た動き方が出来るよう努めたいと思います。

11月例会「オイネガ森」 高橋瑞穂

オイネガ森は釜石市と大槌町の境界にあり、三角点は釜石側にある。オイネはオオカミに由来するようであるが詳細は不明である。オオカミの森なのだろうか？

今回、五本松峠から向かうコースも考えたが、茅沢水車場からオイネガ森(664.2m)に行き、赤仁田森(511.1m)へ周回するコースとした。参加者は13名であった。

下見登山は行わなかったが、コース選定のため、10月の清水山山行の帰りにスタート地の茅沢水車場へ行き、取りつきや駐車スペースの確認をした。急登そうではあるが大丈夫かなど。暗くなってしまっても見えなかったとも言うが・・・取りつきを確認したら、ルートは皆で見つけながら行くことに。

当日は
天気
に恵
まれた。茅
沢水車場
から予定
の急登。想
像以上の
急登で四
つん這い
にも。すぐ
に一汗か
いた。残っ
ていた楓
の赤、オレ



ンジ、黄緑の紅葉、コシアブラのレモン色の黄葉が青空に映えて、疲れも忘れるくらいだった。

急登を過ぎれば気持ちよい尾根歩き。出発から一時間ほどで四等三角点「上栗林」に到着した。木々や紅葉の隙間からは様々な山が見え、同定しながら、休憩しながら進んだ。松の木が多く、秋には立派なきのこが生える

のかなと想像した。出発から二時間ほどでオイネガ森、二等三角点「橋本」に到着した。

ここでお昼休憩とした。山頂は広くなく、それぞれ斜度のある所で休憩したが、私はザックが倒れ、中からおにぎりが飛び出て転がっていった。おむすびころりんを体験。どこかに行かないでくれてよかった。

大きい熊棚の枝を尻目に次へ。いきなり急下り。自分がおむすびにならないように注意しながら下った。枝の藪あり、登りあり。出発から四時間半ほどで赤仁田森、三等三角点「赤仁田」に到着した。ここから茅沢水車場へ、さらにルートを見つながら下る。途中でムキタケを発見。たくさんあったので採るよねー。後日、美味しくいただいた。メンバーにきのこ博士がいるとお土産ができてうれしい。

最後の伐採跡から茅沢水車場への下りが急で茨もあり、難儀した。山行時間が6時間半弱、アップダウンやルートファインディングもあり、たいへんなところもあったが、皆さんの協力で楽しく有意義な山行であった。おつかれやまでした。



12月例会「網張温泉スキー場」 久保 豊

参加者9名で実施（男性6名、女性3名）。仕事納めの日とあってお客は少ない。ゲレンデの積雪量は70cmで例年に比べ少なくセンターハウスからゲレンデに向かう通りの除雪された雪の量からもわかる。天候は薄曇ながら明るく風もなく、予想気温は-1℃。暖かく感じる。8:30集合。遅れての到着者を待ち活動前のストレッチ後の9:40リフト乗車。ゲレンデの雪質もよい。積雪量が少ないため第2リフトまでの運行中。ゲレンデの滑走面は僅かにスキーで削られた斜面に所々小さな小石が露出していたが滑走には全く問題はない。



午前中は、アルペンスキー、山スキータイプ装備者全員で基礎的な練習。ポジションングと荷重動作、プルークからパラレル時へのターン時の体重移動の動作確認や練習を行う。途中、会員の嶋田さんも偶然お会いしテレマークの滑りを拝見させていただく。

昼食休憩をはさみ午後は、グループでのフリー練習。午前中の練習を想起しながらの滑走。第2リフトまで上がり、長い距離を滑る。今回、初参加で幼少期以来のスキーをされた大場さん（大場さんは午後もしっかりとレッスンに汗を流す。）午後の滑走では、午前中の最初の1, 2本の滑走状態からは全員見違える程の劇的な上達の変化に驚いた。15:00頃活動終了、解散。

今回の活動も、事故や怪我なく全員無事に活動でき有意義な一日となった。また今回も

会員の網張スキー場の中村さんから協力を得たことに紙面をお借りしてお礼申し上げます。

1月例会「堀合ヶ岳」 鳩岡美波

前日での天気予報は曇り。山行の2日前は盛岡では大雪。雪が積もっていないか、寒くないか、心配しながら山田へ。天気は晴れ。絶好の山行日和。残念ながら体調不良などで4名不参加の、計8人で向かう。

関口神社で挨拶を済ませ、いざ頂上へ。山行開始わずか50m程で急登。傾斜は30度はあるだろうか、松の葉で滑らないように慎重にワサワサと登る。登りきったと思えば、更に上へ続く上り坂。会話がなくなり、はかばかしながら黙々と登る。と、「綺麗!!」と声がる。振り返れば山田湾が見えるじゃありませんか!!下見に来た11月はまだ木に葉が残る、土砂降りで行った為、まさかこんな素敵な眺望があるなんて!海に癒やされながら足を進める。稜線に出て一息。



(関口神社にて)

今回のコースは、高岡さんが選択してくれた。「他の登山者が登っているコースは面白くない、だが目星を着けていたコースは立入禁止区域に入ってしまう。せっかくだから面白いコースを歩きたい!」そんな思いで選んだコースは、稜線に出てからもアップダウンが激しい。ニセピークが、いくつあったことか。皆で笑いながら、時には、弱音を吐きながら歩く。天気が良くて、稜線ではスキップした

くなる瞬間もあった。下見が苦しかった分、参加メンバーの誰よりもルンルンで歩いた気がする。

しかし、そう簡単に行くわけでもなく。さすが里山!藪!藪!藪!笹もあったが、ツツジの木が行く先を拒むのだ!!べちん!ぱつん!と体や顔面を叩かれる。ザックの紐や帽子、髪も絡まり後ろ髪惹かれると言ったところか。

やっとの思いで着いた山頂。おやつを分けながら30分ほど休憩。ここからも気が抜けない。「帰りほど危険だ。」と高岡さんは言う。疲れで足元は思ってるより動いていない時があるのだ。今回はベテランの方の参加が多かった為、手厚いサポートを受け、足元に注意しながら下山。ピストンのコースだったが、せっかくなので、もう1つの三角点、租谷森の座をゲットして帰る。後半の急斜面、もう少しだ、と歩いていたとき「わあー、あー」という声と共にゴロンと音がある。直後に「転んだ!大丈夫!?!」と声が!!急いで駆け寄る。転倒したが、大木に止まり一安心。危うく急斜面を滑落し大事故になりかけた。参加者の持ち前の体幹の筋力やポテンシャルに助けられた。その後は何もなくて無事に下山。安堵の気持ちで写真を撮り解散。

今回は下見から当日の流れまで、先輩方に教わりながら幹事をさせてもらった。頼りっぱなしだ



った。団体行動の難しさ、楽しさを改めて感じさせられた山行だった。

2月例会「霞露ヶ岳」 高野修

かろ
霞露ヶ岳は山田町の船越半島にある、標高507Mと地理院地図には記載されていた。波打ち際ぎわから登る事が出来る数少ない山として全国に知られていると、下見の時に地元の登山者が自慢げに話をしていました。当日の天候は曇り、微風、温度観測記録なし。前々日には宮古市内5cmの積雪が観測されていた。



海と鯨の科学館に集合(7:55)、今回

すくいそ
は漣磯海岸からの縦走予定につき4台の車で下山予定の霞露ヶ岳入り口(参道コース)を目指し出発、山道は一昨日の大雪が融けきらずに轍と共に凍っていた、四駆でも一度止まったら登るのが困難だろうと思いながらも、大きな揺れとスリップに耐え、前進。

やがて誰かが山仕事に入ったろうと思われる現場を最後に轍が無くなり、その先は大雪後誰も通っていない、白いきれいな登りの坂道。

参加者の一人熊谷(加)は、「人生で2番目ぐらいに怖かった」と話しました。

これを書きながらも、凍ったこの山道が今回山行の一番の難所だった気がしています。

霞露ヶ岳入り口に車2台をデポして漣磯海岸へ、漣磯海岸からは水平線が海原の向こうに、はっきりと見えていた。

小鳥谷海岸パーキング(標高10.9M)

に車2台を止めて、登山仕度。その最中に先に来ていた親子連れ？兄弟？のグループが、元気な挨拶を交わして登っていきました。

さて我々は、まず冬期間だけ見られるという、大氷瀑を見学！？ところが20日前には例年よりも小ぶりと言えども少しは見られたのですが、確認できず暖冬を感じました。

9:25 雪に埋もれた海岸の小石をジャガラ、ジャガラと踏みしめ、沖の貨物船に手を振り登山口へ、まずは409Mの赤平の四等三角点を目指す、幸い雪に足を取られることも少なく、波が小石を漉くう響きを足元深くに聞きながら、赤平金剛の赤銅色の絶壁、重茂半島の突端のトドヶ崎灯台を冬木立眼下遠くに眺め1時間強で三角点を確認。

11:00 赤平三角点から山頂への緩やかな登りは、新雪が15cmぐらいで歩行には支障なく、対岸？対半島？の航空自衛隊のレーダー基地がある十二神山(730.5M)、日光山(672.2M)を眺め、山頂へ歩を進める。

11:37 山頂着。

先行していたパーティー3人が休憩していて我々を拍手で迎えてくれた、互いを紹介し合うと黒沢尻北高等学校山岳部の生徒1名、顧問の先生と山の歩き方を指導する先生だった。

暫し山談義？をして、下山は情報交換をしながら霞露ヶ岳参道入り口へ行動を共に。

12:55 霞露ヶ岳参道入り口着

シャーベット状になった舗装道路を小鳥谷海岸パーキングへと向かう。

13:45頃

黒北山岳部の皆さんとも別れ、我々のパーティーも解散しました。

即身仏伝説(若き僧 智芳秀全が1738年に人々の安寧を祈り入滅)が残り、夏には山背風(やませ)の冷たい霧に包まれるだろう、霞露ヶ岳。

小石を転がす波の音が同じリズムで響く小鳥谷海岸パーキングを後にしました。

県山協 岩登り講習会

小山田千鶴

岩手県山岳・スポーツクライミング協会主催の岩登り講習会、今年も参加させて頂きました。初参加した昨年は雨天の為、北上市総合体育館内のクライミングボードを使用して行われたのですが、今回は天気も良く、北上市展勝地公園内の陣ヶ岡が会場となりました。紙の資料も配られましたが、ここは陣ヶ岡…初めての方も玄人の方も岩壁に熱心な方々が集まる素敵な場所、陣ヶ岡。まずは実践。実践。とにかく実践。紙を見るよりもどンドン動いてやってみて覚える方式でした。

参加者は講師陣の方々も合わせて29名。

陣ヶ岡の壁は高さ10~15mほどあるでしょうか。その上に既に北上山岳会、指導員の方々がセルフを取れるようロープを張って 있었습니다。壁の上からはバックアップを取っての懸垂下降や引き上げシステムの流れ、トップロープでのクライミング等、壁の下では支点構築(固定、半流動、流動分散)の作り方や原理、ロープワーク、ビレイの仕方等々…覚えることが盛り沢山でした。これをスイスイと作業できるようになるにはまだまだ程遠く(汗)練習と経験が必要…と感じました。

北上山岳会の方々は流石!!慣れていて手際が良く、ハーケンがセットされている所にクイックドロウを掛けてリードしていく姿がとても格好良かったです。ひと通り講習が進むと、後半はトップロープでのクライミングや



あぶみを使用してお楽しみ時間。

あぶみを使っただけの登りは初でした。うまく表現しづらいのですがスリングで出来たハシゴ、輪っか状で足場が出来ているスリングとでも言ったら良いでしょうか？そんな見た目のあぶみ。

「フリークライミングする人からはあぶみを使っただけの登りはクライミングでは無い。邪道だとか言われてるんだよ」とお話を聞きながら、いざ、自分の番です。2つセットで左右交互にかけていく形。使っただけ登ってみると…いやいや。なんと。あぶみを使っただけの登りもなんと、とっても大変。体幹が凄く必要で少し上がるにもへろへろになりました。大変だけど何故か面白くもありました。

左側のハング部分をみんなでトライして登らせて貰えたのも、とても疲れたけど興奮して楽しかったです。

「岩登り」ひと括りにはし難いアルパインやフリークライミング等色々な種類、スタイルがあることも教えていただきました。安全を確保してくれる技術をきちんと身に付けて、もっと楽しんでいきたい♪と思った講習会でした。

県山協 初冬期講習会 大場由実子

今年 3 月に阿部支部長に出会い、JAC に入会させていただきました。

月例山行に参加して山での歩き方、地図の読み方などを丁寧に教えていただき本当に恵まれていると思います。

冬季講習会に参加することになり、全く冬山登山のことも知らずに飛び込みました。今思えば、わからなかったから「えい！」と参加したと思います。

装備の殆どを持っていない私に支部長は、ワカンを探してくれて足りない装備のほとんどを貸してくれました。澤口さんにビーコン手配もしていただきました。ワカン初体験だったので「冬山登山初心者講習会」も開催し

てもらい、ワカンでの歩き方、スマホでの読図など教わりました。高野さんも一緒に参加してくれて楽しく心強かったです。

当日までの準備品などは、小山田さんが丁寧に教えてくれて感謝しかありません。

講習会では、最初の階段からリュックが重くて足が上がらない私にすぐに周りの方が気づいて、分担で私の食材や重い荷物を持ってくれました。

「初心者は、暑かったり疲れても遠慮して言わない、それは事故や怪我につながる」まさに、私が遅くて迷惑をかけているように勝手に感じていました。

それはリーダーの方々や経験豊富な方が考えてくれているので私は私のできることをする、怪我をしない、慌てずにしっかり歩くことに専念しようと思いました。

講習会では、低体温症の症状についてや、レスキューの仕方を学ばせていただきました。今まで、雪崩救助をしてくれていた方々のことを考えてもいませんでしたから、一生懸命にレスキューに関わっている人達がいることを知り得たことは大きかったです。

ワカンを履いて転んでばかりでしたが、必死にレスキューをする姿を見て知ることができた事に感謝をしています。

そしてやはり命懸けで生きている人たちは食べることに一生懸命なんだなと食事風景を見て感動しました。山小屋とは思えない豪華な食事でした。すき焼きにお刺身のマリネやうどん、お味も良かったです。

生死に向き合う人たちは、生きることを楽しんでいるんだなと感じました。始まったばかりの私の登山は、どんなに沢山の人達のお陰であるかを痛切に感じ、皆から受けた恩は私の魂の肉となりました。

受けた感謝は経験を積んで智慧をつけ必要な方に返して行きたいと感じました。そして、兎に角、準備が皆さん完璧でした。何事にも準備が大切なのを痛切に感じた講習会でした。

今後の生き方に、活かして行きたいと感じました。

県山協 沢登り講習会 高橋瑞穂

岩手県山岳・スポーツクライミング協会主催の沢登り講習会に小山田さんと2名で参加した。全体の参加者は29名、場所は花巻市豊沢の毒ヶ森山塊、大空滝沢で行われた。

私自身、沢登りは初心者で、経験は三年振り、二回目であった。沢靴を履くのも久しぶりでかなりドキドキしながら参加した。まず、道路から沢への取りつきが急な下りであり、登山靴では何でもない所だが、沢靴だと滑りやすく、沢を歩くのもいつもと違う感覚であり、これからの行程がとても不安になった。参加者のほとんどが普段、ボルダリングやクライミングをやっているようで、段差のある場所を登るのも余裕そうに見えた。



私は登れそうだけど滑ったらどうしようと思ひ、かなり慎重になってしまった。ビレイ器は種類がいろいろあり、今回使用する物は初めてであり、同じ班のメンバーに使い方を教えてもらった。参加経験者に事前に聞いて予習しておくべきであった。

2023年は暑い日が続いたが、当日も晴天で気温が高く、水がとても気持ちよく感じられた。日射しが水辺に反射するキラキラ、深緑、所々に咲くトリカブトが何とも美しかった。

メインの大空滝！もちろん初めて見る滝であり、とても大きくてきれいであった。しかし！これを登るのか... またまた不安。最初に講師が登っていく。めっちゃ滝の水を浴びてる！講習生は滝を登る班と滝の横を巻いて

登る班の2班に分かれた。私はもちろん、巻いて登る班へ。一人一人慎重に登っていく。女子でも果敢に攻める姿がかっこよかった。小山田さんも滝を登る班で頑張っていた。すごいなあ。滝を巻くとはいえ、水を浴びる箇所はある。段差もかなりあるし、真つすぐではない。手や足を掛ける場所が微妙に難しい。見ているのとやるのではやはり違う。なんとか第一段階の中間地点へ到着。安全な場所へ移動して次の人の登りを見ていた。

そこで事故が起きた。滝を登る班の講習生が滝の中間地点の滝つぼにいたところ、滝の上から落石があり、頭部に当たってしまったのである。私はその瞬間は見えていなかったが、石が転がってくる音、石が水に落ちる音、周りの悲鳴を聞いてとても怖かった。講師には医師もおり、現場へ移動して診察していた。落石にあった講習生は出血はあったが意識はあるようであり、少し安心した。

ここで研修は中止となり、先へ進まず、引き返すこととなった。引き返すのも距離があり、登った段差を下りなければならない、またまた不安。

滝の中間から藪に下りるのが段差と斜め方向であるため、皆、難儀した。コツを教えてもらいながら慎重に少しずつ下りた。懸垂下降も久しぶりで緊張した。途中、救助ヘリが来た時はすごい爆風であり、沢の水が逆流してきて驚いた。でもまずは無事に搬送されたことにほっとした。

大空滝は電波の無い場所であり、先に滝を登った研修生が本来歩く予定のルートを進み、集合場所へ。集合場所も電波が無かったので、車で沢内村の電波のある地点まで移動して救助要請したようであった。登山でも電波の無い場所は多々あるが沢は常にそうである場所が多い。さらに危機意識を持って臨む必要があると感じた。

中止となった講習会ではあったが、沢歩き、滝見ができ、ロープワークなど経験し得たものも多々あった。いつになるかわからないが次回の沢登りや講習会に活かせるようにしたい。

県山協 冬山講習会 澤口 誠

岩手県山岳・スポーツライミング協会の冬山講習会に参加してきました。今年は源太ヶ岳・大深岳（大深山荘泊）です。

講習内容は、歩行訓練（山スキー）・読図・耐寒訓練・などなど学びます。

7:30 松川登山口からスタート。奥産道をテクテクとハイクアップ。丸森の沢を過ぎてからすぐに斜面に取りつきます。源太ヶ岳下の森は最高の雪質。積雪も十分。滑る明日が楽しみ。オープンに出るまでは先行者のトレースを使わせてもらいました。

上倉沼からコンパスを合わせて進み源太ヶ岳のオープンに出ると、きれいなメンツルの斜面。但しここは雪崩の巣。雪庇が崩れたデブリがゴロゴロと・・・怖いですね。

水場回りからまたコンパスを合わせて一気に大深山荘を目指します。



今回、アプリなどは使わずに読図してコンパスだけで大深山荘へ向かいました。

12:17 コンパスを 300° に合わせ樹氷のモンスターの間を交代しながら膝ラッセルを繰り返し山荘に。

山荘の中で昼食指示。だが入口の雪をどかすも扉が開かない・・・

2階の冬期入口は空いた。みんなで協力して一階のドアも何とか開閉。昼食を食べたあと、講習会開始。

小屋から少し登った所で穴を掘り、ピットチェック。30cm、70cm 位で弱層が出た。

みんなで実際にやってみた。なんども繰り返し覚えて。その後、埋没者の雪のかき出しなど学んだ。

終了後にアルペンの参加者と大深の水場のオープンバーンで2回滑った。深い。軽い。腰まで埋まるパウダーは最高である。

小屋に戻り懇親会。いろんな山の話が聞けた。



6:00 起床。外は視界があるが吹雪いている。

とりあえず小屋から源太ヶ岳目指すも風が強い。山頂はいかないでそのまま戻る事に決定。源太ヶ岳のオープンバーンの下でシールオフ。楽しみにしてた源太ヶ岳下の森へ移動。一気に滑り降りて奥産道へ。最高！

11:17 閉講式して終了。

大怪我で参加出来ないと思っていた講習会にも参加出来てほっとしております。

そして小屋で食事に混ぜてくれた岩手アルペンローズ山岳会の皆様お世話になりました。

来年はJACから沢山参加してほしい。

編集後記 高橋勇一

今回の表紙の写真は私が個人山行で訪れた八幡平の樹氷の写真を使いました。

今回の編集も気づかぬうちにレイアウトが崩れていたり... (泣)

素人編集ゆえお許しください m(_ _)m

利部輝雄先生（元岩手医大山岳部部长）のご逝去を悼む

中屋重直



利部（かがぶ）輝雄
会員（会員番号
11923）が令和5年6
月11日、盛岡市内で
お亡くなりになりま
した。享年87歳、消
化器系悪性腫瘍を患
っておられました。

中屋は大学で医学教育を直接受けてまいりましたので、利部先生とお呼びしたいと思います。先生は婦人科癌臨床の権威として長く務めてこられ、岩手医大のほか岩手県対ガン協会、盛岡赤十字病院、県立衛生学院などで登山指導の足跡を残しておられます。

日本山岳会への入会は平成7年2月（60歳）ですが、それよりずっと前に岩手医科大学山岳部（会員番号8969）部長教授として、学生・OBの指導をし、かつ同僚佐藤敏彦（当時岩手支部長）・佐藤紀子夫人らの活動を支援してこられた功労者です。

同山岳部とかつての指導者・学生・教職員のほとんどが今はJACの活動から離れていますので、かつて中国、アフガニスタン、モンゴル、アラスカ、チベット、南極等に残した足跡および岩手県山岳協会等における団体・個人（支部会員には安井豊、藤岡知昭、高橋俊紀、櫛田房男の各氏らがおられました）の業績については本稿以外の機会をみて記録できればと思います。

私は西部崑崙山域の高地を体験しました。平成10年、40歳代でした。この時の経緯を利部先生の追悼の思い出として書いておきます。

岩手医大山岳部におりた中国崑崙パミール高原山域の登山許可は、3年以内の期限だったようです。目標とする未踏峰を探し、登頂計画をねり、装備を整える、そして遠征隊の

人選を、すべて利部先生が準備されました。そういう計画ではありましたが、大学病院の責任ある勤務を兼ねながら「遠征隊長」利部先生の日程がたいへん困難であったことと、実は現役学生部員のほぼ全員が親の反対にあってしまったことに悩んだのでした。

学生は最大8名が登はん要員と見込まれたときもあったのですが、冬期富士山の高所合宿は半分に減りました。

利部先生の指名で日本山岳会から阿部陽子さんが指導しておりました。事実上の登はん隊結成です。

現地偵察遠征を平成9年（1998年）8月、山岳部の3学生を阿部陽子隊長が随行して18日間の西部崑崙パミール山域の奥深く6,000m級の三山を5,000m地点まで偵察し、用具類は新疆登山協会にデポしました。

そして翌年になったのですが、前記の理由で隊編成ができなかったのです。なんとかさらに次年度以降へ継続できるようにと、支援隊（学術調査目的）のみで遠征を実施しました。隊は教職員3名と山岳部学生2名です。

高山病とフッ素症（飲料水調査）に関する調査を兼ねて、中屋（当時助教授）が隊長で、7月末から12日間、途中ムスターグ・アタの4,800m付近まで到達しました。

帰路で洪水のため足止めを食って難儀したり、岩手支部会員でウルムチに移住された石村実・日満子さん宅にもお寄りしました。

しかし、これ以後、岩手医大山岳部・利部輝雄総隊長による海外登山が再開されなかったことを何とも悔やんでおります。

合掌。